

筆山

第51号 / 2011年12月

土佐中・高等学校同窓会 関東支部会報

編集人/ 岩村康生 (41回)

編集室 : 〒106-0032 港区六本木3-16-12-7F 六本木司法書士合同事務所気付 編集委員 鶴和千秋 (41回)

TEL 03-3587-6200 FAX 03-3587-6201 E-mail:tsuruwa-office@rsg.gr.jp

関東支部ホームページ : <http://www.tosako-kanto.org/>



風のフォルム2011-2



風のフォルム2011-1

須藤博志さんの作品より

土佐高同窓の皆さん

須藤 博志 (41回)

お元気で過ごさしのことと存じます。全くの、ご無沙汰と不義理をしておりますことお詫び致します。私を懐かしい青春時代と呼び戻してくれたのは、七年ほど前の同期水野孝からの電話と、突然アトリエのドアをノックして入ってきた、すっかり白髪交じりのおじさん、山崎都太郎じゃけんどの自己紹介でした、青春時代の顔が浮かび、高校時代へと呼び戻されました。四十六年間の空白から同期の仲間の中によんでいただき、深く感謝し心より御礼申し上げます。私は高校二年生後半から始めた彫刻の勉強と仕事を現在も続けております。彫刻の勉強を始めるにあたっては、西川先生の言葉や援助、永野先生、政岡先生、高崎先生らの気持ちに支えられての出発がありましたことを、今も有り難く感謝の気持ちで一杯です。

私は現在主に石彫抽象彫刻を制作発表致しております。抽象構成の作品表現は二十世紀初めころからヨーロッパに起こり、石彫での抽象表現は日本ではほぼ百年ほど経ちます。日本経済の高度成長時代、国際レベルの近代都市作りの印として抽象彫刻は街々に設置されていきました。抽象表現は現実の具体的な物象で表現のために抽出された要素や形や、人間が考え出した形などを再構成して、輝いた心の組み立てと、表現を行います。

二十世紀の政治、経済、文化を形作っていた思考は、さて二十一世紀に入り、どのような変革や、改良がなされ、人々に支持されて行くのか、今まだ確かなものはありませんが、世界の作品制作者達は、より人間が人として輝いた心を組み立てられる表現がないものと日々工夫を致しております。私もそんな作品制作者の一人でありたいと願っております。

毎年開催され、私も出品致しております国立新美術館での新制作展に土佐高同窓の方たちが、お越しいただき、ご高覧いただいておりますこと、この場を借りまして、厚く御礼申し上げます。皆さまの益々のご壮健を願っております。有難うございました。

追伸 来春一月下旬から東京目黒にあります現代彫刻美術館(長泉院付属)主催の私の個展が開催の予定となっております。東日本震災で延期となっております。後日ご案内を致します、宜しくご高覧のほどお願い申し上げます。

関東支部活動報告

事務局

二宮 潔(49回生)

7月に記念の50号を発行したばかりなのに、はや51号の準備をする季節が来た。世の中が猛烈な速さで過ぎるように感じる。個人的な話で恐縮だが10月下旬、僅か4日間ではあったが、宮城県南三陸町での復興支援ボランティア活動に参加した。活動初日には、あの防災対策

本部だより

会長

岡内紀雄(34回生)

関東支部のみなさん、お元気ですか。いつも同窓会活動にご協力いただき、ありがとうございます。高知では最近、うれしいニュースがありました。室戸市の室戸ジオパークが今年9月、ユネスコが支援する「世界ジオパーク」に認定されたのです。室戸の地形は、地球のプレート運動と密接な関係があつて、南海トラフで海洋プレートが沈み込む際、赤道付近から運んできた物質や、トラフ付近にたまつた土砂が、次々と陸側に押し付けられ、「付加体」と呼ば

平成24年度の年会費納入にご協力ください。郵便振り替え用紙が全員の方に同封されております。来年度用です。今年度の総会で払われた方にも入っております。ご注意ください。

庁舎の2階で最期まで町民に避難を呼び掛けた遠藤末希さん(24歳)はじめ20名の尊い命が奪われた3階建て庁舎残骸の前に立ち、地元語り部(ご案内役のご高齢女性)の話に思わず涙がこみ上げ言葉を失った。
●明年の学年幹事会は2月18日

れる海底地層が形成されますが、これが南海地震で隆起して室戸の大地になるのです。ジオパークは「大地の公園」を意味しますが、その特異な地質や地形に加えて室戸ではそこに特有の自然や文化、産業が成り立っており、これらすべてがジオパークとして世界認定を受けました。

◎2011 ホームカミングデー開催
今年8月13日(土)に母校で、全体の同窓会(ホームカミングデー)を開催しました。役員改選では、全役員が再選されました。記念講演は、富士重工業株式会社社長の森郁夫さん(41回生)と内閣府政策統括官の村木厚子さん(49回生)のビッグな二本立てで、

(土)、関東支部総会は6月2日(土) いずれも霞が関ビル・東海大学校友会館にて開催します。

北海道支部だより

事務局

山本隆昭(53回生)

支部総会は10月29日に東京ドームホテル札幌で行いました。来賓として、土佐高より三浦教頭先生、岡田先生、同窓会本部より北村副会長、関東支部より

大変有意義な総会になりました。また、恒例の特別授業は、楠目博之先生(51回生)が「東日本大震災と原子力発電」と題して熱い授業を行いました。なお、2012年のホームカミングデーは、8月18日(土)の予定です。

◎新校舎建築募金

みなさんに再三再四ご協力をいただいている新校舎建築募金は、今年9月末現在3億6千9百50万円となりました。2007年3月から取りくみ、2012年3月末4億円を目標に進行中です。目標達成も夢ではありません。募金委員長として最後のお願いを申し上げます。(10・25記)

市川幹事長、西川様、関西支部より山下理事、東海支部より山崎理事にご出席頂きました。北海道支部からは、12名出席と、支部設立総会以来の大人数での総会となりました。大人数といっても総数19名です。で宴会場もテーブル2つとこじんまりとしています。学生会員の出席が6名と、若手の出席者を増やすという積年の課題に少しは対応できたのではないかと思います。来年少しずつでも参加者を増やしていきたいと思っています。また総会では、役員の改選があり、支部長をはじめ役員全員が再任となりました。

東海支部だより

事務局

神宮美恵子(44回生)

大震災から半年以上が過ぎ、「復興」という言葉だけが独り歩きをしているようです。被災者の皆さまのご苦労はいかばかりかと推察いたします。東海地方では、自動車産業の操業日も元に戻り、景気動向も底を打つたような気配ですが、中日新聞に震災以来毎日掲載されている犠牲者の方々の数や、震災関連の記事を目にするたびに、この未曾有の災害が我々の価値観や考え方に大きな変化を与えたように感じています。当地では、今、野球ではドラ

関西支部だより

幹事

藤原由親(65回生)

今年度の総会・親睦会は4月3日(日)に開催されました。場所は淀川の桜が一望できる天満橋のイタリアンレストランです。ご来賓十一名を含む総勢七十一名の出席でした。今年新しい企画として新社会人となった卒業生一人ひとりの自己紹介が行われました。同じ業界で働くこととなる先輩・後輩の親睦も深められ、同窓会としてより意義深いものとなりました。また、平成24年度の総会・親睦会は次のとおり開催されます。
日時：平成24年4月8日(日) 午前11時30分
(受付開始予定)
場所：関西文化サロン(大阪梅田・阪急グランドビル19階)
今年以上に盛り上げていきたいと思っております。

母校だより

学校長
山本 芳夫 (40 回生)

皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。いつも母校に対し格別のご支援を賜っておりますことを心から感謝申し上げます。

○向陽クラブの秋の活躍ぶり

今年も創意を凝らした櫓が立ち並び、恒例の運動会が秋分の日に大勢の来場者を迎え、晴天の下盛大に行われました。生徒たちの胸に素晴らしい青春グラフィティとして刻み込まれたものと思います。そして、この日を境に、高三生はいよいよ大学受験に向けた最終段階に入りま

香川支部だより

事務局
大石 浩 (54 回生)

香川支部「七夕総会」は、7月2日に、池上理事長、山本新学校長、西山本部幹事長をはじめ7名の皆さまを来賓としてお迎えし高松駅前「高松シンボルタワー」で開催しました。

山本新学校長の熱い想いを込めた「挨拶から始まり、三澤衡一郎大先輩(19回)から新社会

ります。

○防災訓練の実施

お陰様で、新校舎は免震、耐震構造の地震に強いビルとして二年前に竣工いたしました。しかし、今回の大震災を受け、ハード面に加えソフト面での備えも強化しなければとの思いからマニュアルを見直し、それに沿った防災訓練を九月五日に実施しました。訓練には近隣住民の方、潮江小の皆さんにもご参加いただきました。総勢二、三二二名の皆さんの真剣な取り組みを通じて一定の成果が得られたと評価しております。今回の訓練結果を十分検証し、さらなる防災レベルの向上を図ってまいる所存であります。

け最後のお願

げます。

ります。

○校舎建築募金の目標達成に向けて

○修学旅行でお世話になります

新校舎は、「安全・安心」とともに生徒同士、生徒と教職員との「コミュニケーション」のスペース、「文武両道」をスムーズに行えるレイアウトなどにも気を配った素晴らしい学び舎であります。この様な環境を整えて下さった関係者の方々、そして財政面でご支援いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

さて、募金活動もいよいよ来年三月末で終了いたしますが、目標額四億円達成までもう少し(九月末時点での残額は三千五十万円)でございます。重ね重ねのお願いで恐縮ですが最後ののお力添えを伏してお願ひ申し上げます。

既に訪問が終了していると思われま。色々ご配慮ありがとうございました。

人の79回生まで42名の仲間が、いつもながらの盛り上がりを見せました。ご来賓として関東・佐藤さんと常任幹事(57回)、関西・山下成子幹事(32回)、広島・中野理和子会計監査(52回)の3女史がご参加下さり、これに地元の岩井住子さん(28回)、大石晶子さん(62回)、近藤晶子さん(65回)の3名が加わって、例年になく華やかな宴席となりました。関東支部の佐藤常任幹事には宴席を盛り上げていただきありがとうございます。なお、今年度の役員改選では、三役は変わりありませんが、幹

事・会計監査の清岡豊彦さん(63回)四国銀行が転勤され、代わりに中嶋康士さん(64回)四国銀行)が就任、また、新たに村田剛さん(50回)村田会計事務所が幹事に就任されました。来年の香川支部総会は7月7日(土)を予定しています。

デルセンにて山本芳夫校長先生(40回)をはじめ9名の来賓をお迎えし、平成23年度支部総会を行いました。総勢32名でアットホームな雰囲気でお話を深める事ができました。

例のテーブルスピッチでは来賓の幸徳正夫氏(37回)のいつもながらの感動的なお話、傍士朋子様から「土佐高校」という文化IIブランドについてのお話を頂き、嬉しく思いました。

広島支部だより

幹事
大田 潔 (60 回生)

10月29日(土)に広島アン

抱負や母校の近況報告をお話し頂きました。(広島支部からは新校舎新築募金として50万円を寄贈させて頂きました)。恒

初参加の中村哲氏(51回)は、リビアのトリポリから帰国後4月より広島に赴任され、土居裕美子さん(61回)は、比治山大学にて教鞭を執られております。参加最年少の藤川正宗氏(72回)は、大学生当時以来の出席ということでした。



山下、島、吉良、加茂、山崎、中屋の9名でチームを組んで参加し、筆記競技、実験競技、プレゼンテーションのすべてに力を発揮して優勝した。

英語弁論大会などでも好成績 (母校HPより抜粋)

◆第64回高知県中学・高校英語弁論大会(11月6日)

【中学の部】「暗唱」中3の間崎君が優勝。「弁論」ガーナの高校生徒の交流について話した西森君(中2)が2位。

【高校の部】震災後の「エネルギー不足」問題を取り上げた新納さん(高2)が準優勝、「本当の幸せとは」というテーマで語った島内さん(高1)が優勝。

◆第11回高知県英語コンテスト大会(10月30日)2位で昨年に続き全国大会(12月金沢学院大学)出場を決めた。

磐梯山を紅葉が彩る十月下旬、猪苗代湖畔の旅館を訪ねた「ガーナよさこい支援会」のメンバー中田、中村両君(35回生)は、食堂に集まった猪苗代町民の熱い拍手で迎えられた。この日、八月二日から一週間にわたるガーナ高校生一行の福島訪問受け入れに汗を流した地元世話役の方々十名の「反省会」が行われていた。中華料理を囲んで、笑いと尽きぬ思い出話に時を過ごしながらも、三月十一日の東日本大震災以来の様々な苦労が各々の頭に蘇ってきた。

第8回ガーナ高校生日本研修旅行

ど心配事だらけで、いったんは「今年の交流は中止やむなし」と観念した。ところが、ガーナ高校生の反応は早かった。ネット画像 You Tubeでの見舞いメッセージとともに「行きます」との声。東京での交流幹事校麻布学園からも「中止しないで」との訴えが。そして、縁者を失ったり、作物の風評被害、避難民の世話などで大変な状況にあつた猪苗代町から、「受け入れていただけませんか」とど当方から訊ける雰囲気ではなかったところ、「ぜひ来てください」との熱い言葉心配されたお金も、有難いことにスポンサー(株式会社ロッテ)はじめ、土佐校同窓生を含む大勢の方々のご厚志が集まり始めた。

ナ高校生研修旅行先を東京と福島に予定していた当支援会も、「日本にガーナ高校生が来てくれるだろうか?」「毎年参加する原宿スーパースタジアムは開催されるだろうか?」「福島は受け入れられるではないのか?」「交流資金が集まるだろうか?」な

被災地 福島を訪ねて

公文敏雄(35回生)

況にあつた猪苗代町から、「受け入れていただけませんか」とど当方から訊ける雰囲気ではなかったところ、「ぜひ来てください」との熱い言葉心配されたお金も、有難いことにスポンサー(株式会社ロッテ)はじめ、土佐校同窓生を含む大勢の方々のご厚志が集まり始めた。

そして八月、都内高校生・土佐中生との交流や原宿スーパースタジアムでの交流、ロッテや富士重工の工場見学(森郁夫会長、41回生のご好意による)を終えてやや疲れ気味で福島県に入ったガーナ高校生一行二十名の目を癒したのは、磐梯山を映す猪苗代湖や見渡す限りの水田。美しい日本の田舎の風景だった。



正座してまずは一礼(猪苗代高校茶会)

一夜明けて、お見舞い訪問会など日本文化にひたつた。そして、海岸の学校から集団避難していた富岡高校バドミントン部員と交流。高校チャンピオンらによる模範試合に続き、コート十面ほどを設けた大きな体育館狭しとばかり、全員が生まれて初めてのゲームに、サッサと羽音を立てながら我を忘れて楽しんだ。

傍目に驚いたのは、母校を離れ、親元を離れ、慣れない土地で難儀しているはずの富岡高校選手たちが、礼儀正しく、初心者相手のプレイにひたむきに打ち興じる様子である。一意専心、一糸乱れずとはこのようなことか。高校全日本を制した強豪チームとは聞いていたが、本物の強さを見せて貰った。

福島での交流は、会津大学見学、会津若松観光、ホームステイ、お別れ会と続くが、紙面の都合で割愛する。

終わりに、ガーナ高校生が書いてくれた感想文は、自然と温かい心のある福島にまた来たい、こんなところで学びたい等々感激と感謝の言葉に満ちていたことをご報告させていただきます。



向陽新聞に見る土佐中高の歩み ④ 毎日おしゃべりの楽しい青春の日々

女子部員から見た当時の新聞部について何かを書くようにとの指名を受けまして五十数年前の思い出を探りに書かせていただきます。はじめに少し脱線しまして、文芸部のことを書かせていただきます。

久永洋子 (34 回生)

女子部員が見た向陽新聞部

私は中学、高校ずっと文芸部に、高校一年の時に新聞部に入部しました。二つの部は部室も近く仲良くやっていたように思います。文芸部は女子部員が殆どでした。中学の頃は先輩の言いつけに従って学校の近くの文具店や父兄の店に広告をお願いに行くのが仕事でした。おらずと門をくぐる学生に皆さんがやさしく応援して下さいました。

高校二年の時先輩からバトンタッチされて文芸誌「筆山」を発行した時は大変でした。広告集め、原稿依頼、編集、割付、校正を少数の女子部員で行いました。経費を少しでも安くするために先輩からの申し送り、印刷は高知刑務所に依頼していました。

高知城の西北、すべり山のそばにあった刑務所の門をくぐり、

静かな小部屋で係官の人と原稿の受け渡しをしたものでした。

なかでも一番困ったことは原稿が足りないことでした。その頁を埋めるために私も生まれて初めて創作を書きました。淡い恋心がテーマだったと思います。「筆山」が出来上がって各クラスに配られた時、私の拙文を読んで皆さんが笑っているように恥ずかしくて廊下が歩けなかつたことを思い出します。

そして新聞部には、先輩が「入つてみない」と誘って下さったように思います。

校舎の正面から入ると左は事務室、応接室、校長室、職員室と続き、右は生徒会、文芸部、新聞部、放送部と並んでいます。あの頃は一クラスに生徒七二名も居て、私はヤマサキで七二番でしたから、いつも後ろの壁にくっついて座っていました。

通行できるのは前だけ、それでも授業中は物音一つなく静かに勉強したものでした。休み時間には白線をつけた生徒が廊下も

階段も溢れていました。学校が大好きだった私は、卒業間近な頃、あこの渦の中で死んでしまいたいと思つたものでした。



昭和36年1月、母校で新聞部新年会をしたときのもの

新聞部は大勢で面白い集団でした。高校三年生は勉強優先のため引退し、高二と高一ですべてを運営していました。毎日授業が終わると部室に直行して、色々なことを相談したものでした。すぐに紙面をまかされ、色々な原稿を書きました。「先生の在宅訪問」記事を書くため、久保田先生、片岡先生、熊野先生のお宅に伺ったことなど懐かしい思い出です。原稿を書きながら、半分はお喋りと掛け合い漫才のような、楽しい毎日でした。

■レベルの高さに驚く

今回向陽プレスクラブの素晴らしいご努力によって向陽新聞が全号蘇りました。それを拝見しまして、当時の向陽新聞のレベルの高さと面白さに驚きました。あの雰囲気の中から皆でこの紙面を作り上げたのだと感動しました。しかしそれはその時の部員だけの力ではなく、大いに先輩の励みしがあったからだと思います。高三の先輩達も足繁く部室をのぞいては新聞の作り方について教えてくれました。

また岩谷大先輩、中城さんを始め大学生の先輩達が休みになると真っ先に部室を訪ねて下さいました。東京の風、大学の風とともに。

新聞部には先輩と後輩の強い絆があり、高校生だけではとて

野球部監督に就任して

西内一人 (59 回生)

このたび県立高知小津高等学校から母校土佐高校野球部の監督に就任いたしました59回生の西内一人です。土佐中学・高校で6年間野球部に所属し、高校時代は籠尾先生の指導のもと外野手としてプレーさせていただきました。

平成元年に東京学芸大学を卒業、平成6年から須崎高校で10年、小津高校で7年監督を務め、高多先生の退職に伴い母校の監督を仰せつかりました。

土佐高校の監督の話を聞いた時には、そのような大役を引き受けてよいものかという思いのほうが強く、迷いもありましたが、籠尾先生をはじめOB、土佐高校野球部に育てていただいた恩に直接恩返していただける機会を頂けることは大変光栄なことであると思われました。お引き受けしましたからには、平成5年から遠ざかっている甲子園出場、そして甲子園で校歌を歌うことを目標に日々精進していく所存です。で宜しくお願います。現在高知県の高校野球は高知高校、明徳の2強時代が続いています。この明徳、高知に勝たないと甲子園はありま

せん。現時点では体格面、技術面でも差があります。練習時間においてもハンデはあります。しかし、今年の夏の選手権の予選では、準決勝の明德戦で森岡が8回に押し出しで一点を取られ、0-1で敗れましたが、明德を2安打に抑え、また、8月の新人戦においても準決勝で明德を2年のエース林が3安打完封1-0で勝利しました。力の差はあるとはいえ、自分たちの力を出し切り、土佐高校らしい

野球ができれば十分戦えることは選手たちも感じています。この冬に体力・技術・精神面を鍛え、7月には関東支部の同窓生の皆様に良いご報告ができるよう頑張りますので、宜しくお願います。

「4月以降の結果」
5月の県体 ベスト4まで進出し、雨天中止で4校優勝
7月の夏の選手権大会 準決勝で明德に0-1で敗れベスト4
8月の夏の新人戦 準決勝で明德に1-0で勝ち、決勝戦で高知高校に3-18で敗れる。
9月の秋季大会 準決勝で高知商業に1-7、四国大会をかけた3位決定戦でも0-9で高知高校に敗れ、連年の四国大会出場はなりませんでした。

も対処できないところまで盛り上げていたのだと思います。大島校長先生も新聞部には一目置いておられて、先輩も交えての会議を持つこともありました。生徒からの突っ込みに本気で激高されたり、やさしく教えて下さったり、人間味溢れる方でした。

昭和三十三年春、大島校長先生はお亡くなりになりました。思えば、先生と身近にお話しして、学校を思う先生のご意志の一端をお聞きすることができたことは、本当に貴重なことでした。あの時私達は高校三年生で

「向陽新聞」バックナンバー CD完成のお知らせ

向陽プレスでは「向陽新聞」がほぼ完成いたしました。バックナンバー戦後の混乱かしていく過程で体験した高の『想い』が



クラブ (KPC) の電子化したものを考えCD化いたしました。『向陽新聞』には日本から復興の発展を四国・中学生を校生・中

また、このCDが土佐校の歴史の貴重な資料として、編纂予定の「土佐校百年史」や価値観の大きな変革期における学校運営にも活用されることを期待して、母校にも提供いたしました。詳しいいきさつ、バックナンバー等はホームページ (<http://www.tosakpc.net/>) に、掲載してあります。

尚、CDは非売品ですが、複製をご希望される方はKPC (post@tosakpc.net) までメールでお申し込み下さい。ただ、申し訳ありませんがお申し込みの際に1枚当たり約3千円の制作協力金をお願いしています。

向陽プレスクラブ (KPC)

《お願い》現在5号、82号、107号が未収録です。お持ちの方は御連絡頂ければ幸いに存じます。

(42回生 藤宗俊一)

した。
■部室で育まれた友情
女子部員は勝手に喋ってばかりいて、広告、編集、印刷等の大変な仕事は男子部員が夜遅くまで部室に残ってやっていたようです。

私達は夕暮れになると、にぎやかに下校しました。喋り疲れ、笑い疲れて、鏡川の橋に来ますと、西の空に鮮やかな夕陽が今にも沈もうとしていて、静かな川面に青のりを採る舟が一艘、二艘、船尾に尾を曳きながら浮かんでいました。心静まる風景でした。

平成まで続くことなく、母校には新聞部も文芸部もないということに私は最近知りました。何故？と驚きました。
あの薄暗い廊下の隅、階段のそばの小さな部室で育まれた友情、そして34回生は、国見さんNHK、吉川さん毎日新聞、秦さん朝日新聞、と巣立っていききました。陰ながら、これは私の自慢だったので。

時は過ぎ、秦さんと浜田さんは帰らぬ人となりました。あんなに新聞部を愛していたおふたりに向陽プレスクラブが出来たことを報告したいと思います。

この八月に『商家「木屋」とその時代』と題した本を自費出版し、親類縁者に配布することができました。祖父まで六代続いた商家の当主と縁者の足跡を彼らの生きた時代と共に書き下ろしたものです。

「木屋」は、安永元年（一七七二）に本家村木屋から分家し、高知菜園場町入口の菜園場橋（現在の木屋橋）とともに、傳五右衛門が金物屋として出店したのが始まりです。

●二代目で殿様に謁見かなう

二代目右衛門の時代には金物に加えて砂糖を扱う問屋となり、関係者と共に藩主に謁見できる待遇を受け、さらに三代目右衛門に至り、単独でも謁見できる「独礼御目見御免」を許されました。四代目左右は地金や火薬、篠簞などを新たに扱い、土佐を訪れた各藩のお世話をする「御導役」を拝命、西郷隆盛の土佐訪問時には数度にわたりそのお宿をしています。明治に入ってから五代目右衛門は、紡績機材や諸国種物等も商に加えて、明治後期から大正初めにかけて水野龍の懇望によりブラジル移民事業を手掛けるほか、明治末から十四年間に亘っては貴族院議員を務めています。

しかし六代茂雄が当主に就いた昭和六年に満州事変が勃発し、

長い戦争の時代が続いたため商売は次第に衰退し、敗戦の前年に約一七〇年に亘った家業を休業することになりました。終戦後復興を目指したものの、戦後の諸改革によって屋敷の半分を除くほぼ全財産を手放さざるをえなくなり、断念するに至りました。

「木屋」の歴史は概ね以上の通りですが、私は木屋六代の商家の残り香が漂うこの屋敷に生

私家本
『商家「木屋」とその時代』を
出版しました
竹村守雄（41回生）



れ、藏に囲まれた中庭で大勢のいとこ達と三輪車に乗り、缶蹴りなどで走り回り、キャッチボールなどもして大きくなりました。

●子孫に伝えたい先祖の足跡

日々の生活は質素儉約で地味でしたが、虫干しの季節等には、代々伝えられて来た書画・甲冑・屏風などが土蔵から運び出さ



れ木屋の大広間に所狭しと並べられたり、正月などの祝い事では、御来賓一行を迎える宴席などにお貸しした揃いの皿や椀、膳などが使われたものです。これら品々の由来や、木屋の先祖縁者達のことを、祖母や親の世代か

ら折にふれ聞かされてはいました。それが何時の時代の話か縁者達がどういう繋がりがかなど曖昧な覚えのまま、関西の大学に入學し就職後は首都圏で暮らすようになり、いつしか先祖に思いを馳せることを忘れていました。

ところが十数年前、本家の伯母から高知県立歴史民俗資料館「研究紀要」が千葉の自宅に送られてき、そこには木屋の年譜（町の老役等が藩に提出する履歴書）の全文と資料館学芸員高

松恵氏による木屋の概要が掲載されていました。

年譜そのものは漢字の羅列ですが、一見しただけで随所に木屋についての新しい発見があり、忘れ去ってしまった先祖父への思いが甦って来ました。同時に、今のうちに木屋のことを書



筆者二十歳頃の「木屋」
（屋敷跡地は現在 四国銀行 木屋橋支店）

面白い本ができそうな期待を抱くことになりました。

●兄弟手分けしてまる二年

執筆は定年後の楽しみにとっておくことになりました。当面はその準備として、帰高のたびに図書館等で資料調査を行ったり、叔父叔母達から木屋に伝わる昔話や彼ら自身の体験談を改めて聞きだしたりする一方、先祖の足跡の残る場所を訪ね歩くようにしました。

いざ還暦を迎えても、第二の宮仕えにより、なかなか自由時間を確保できません。しかし八十年代後半となった叔父叔母達から話を聞ける間に執筆に着手しなければ、あれこれ聞き洩らしたと後で悔いを残すことになりかねないとの思いから、兄に執筆プランを相談したところ、兄も同じ思いだったのようです。兄弟で木屋の足跡を書き記そうということになりました。

執筆の裏付けとなる客観的資料は兄弟それぞれが関心のあるところを発掘精査し、著述はすでに四年程前に木屋与左右というペンネームで本を出版した経歴のある兄が担当することにな

今「こんな」としていきます

りました。

こうした経緯を経て執筆開始丸二年後に原稿が纏まりました。出版後改めて本を手にてみると、思いのほかよく書けていると思う所がある反面、もう少し掘り下げるべきだったと思う所も少なからずあります。しかし、全体としては一仕事終えたという満足感を覚えています。おそらく、拙い本であつても子供や孫に残すものができたという気持ちでそうさせるのでしょう。

余談ですが、土佐高同期の鎌田振吉君の先祖も藩政期に種崎町で三好屋という商家を営んでいたことを、執筆に着手した頃に偶然知りました。彼は三好屋の年譜を既に現代文に訳しており、木屋の年譜を読み解く上で大いに参考となりました。三好

屋と木屋とは、町内困窮者の支援、相撲興行の請負などにより度々藩から御褒詞と共に頂戴物を授かっていました。

学校で同期となつた後裔どうしが、「おまんくはお酒以外にお吸い物まで殿様から頂いたのか」などとメールを通じて遣り取りしているのですから、約二百年前の先祖達は驚いていることでしょう。

一冊の本を出版するのは思つていた以上に時間と手間がかかりました。しかし、自分の関心のあることを調べるのは、ついつい没頭してしまう面白さがあります。その過程で同期生達はじめいろんな方と知り合う機会にも恵まれました。皆様も先祖に思いを馳せ彼らのことを書き残してみてはいかがでしょうか。

藩政期半ばから明治、大正、昭和にかけて、土佐の指折りの商家として栄えた木屋(竹村家)。その6代、173年にわたる歴史をたどつた「商家『木屋』とその時代」が刊行された。

子孫が出版「商家『木屋』とその時代」

竹村守順(もりゆき)さん(66)、守雄さん(63)兄弟の編著。家伝の「木屋年譜」などの史料をもとに、一家の言い伝えや回想を交え、時代の動きも織り込みながら、愛惜をこめてつづっている。(中略)

近世から近代へ、動乱の時代を生き抜いた商家、木屋。173年に及んだその歴史は、一家の家史を超えて、土佐の政治史や経済史、文化史にも重なるっているだろう。

竹村守順さん、守雄さんは、「木屋の隆盛も歴史のかなたに消え去る」として、先祖の足跡をたどる手がかりを後世に残しておきたいと思い、本書をまとめた」と述べている。

〔2011年9月22日付 高知新聞記事より抜粋〕



同窓会関東支部メンバーのな



薔薇の木会の由来である銀座のクラブ「J's Club」

新生「薔薇の木会」

根須信一 (42回生)

かに、長く続いている私分的分科会がある。主に石油産業、石油化学、総合商社、エンジニアリング等でスタートしたエネルギー関連産業に携わるOB・OGの集いだ。もうかれこれ20年を超え。

このほど、会長は泉谷良彦氏(29回)から吉村尚憲氏(39回)にバトンタッチされ、事務局スタッフには二宮潔氏(49回)、野中聖仁氏(58回)、澤田千紘女史(78回)の三人が名を連ねる。

去る10月3日(月)、高知県アンテナショップ「まるごと高知」のおきやく・TOSA DININGで「エネルギーと環境」を新たなキヤンチフレーズとして掲げた定例会が催された。

先の東北地方大震災の影響もあつて、今まさに「我が国のエネルギー政策の大転換期」に拍車がかかるうとしている局面での「薔薇の木会」の開催だ。

新世代の20余名が新加入し、90名ほどのエントリーメンバーから、40名を超える参加者があり、エネルギー事情・環境問題等について、ほろ酔い加減よろしく、

活発な議論が繰り広げられた。ところで、私もこの会に入会させていただき、多年の月日が経つ。素晴らしい諸先輩・仲間との絆の思い出が走馬灯のように浮かぶ。とりわけ、会社の先輩でもあつた故・秦敬先輩(28回)、幹事役を仰せつかわせていただいた故・弘瀬孝昭先輩(37回)をはじめ、土佐の数々の先輩には、本当に可愛がつていただいた。

石油産業の「油」(あぶら)から端を発した「油虫」が集まる「薔薇の木会」は、対象者を再生可能エネルギーほか、あらゆるエネルギー関連産業にも拡げ、更には土佐高同期生に限らず、高知県出身者にも拡げる発展の構想を描いている。沢山の仲間が集まり、研鑽されることを願う次第である。



日光・白根山 旅の思い出

第十五回 土佐高ハイクの会

二〇一一年八月六日、東京の暑い朝日が輝く。年一回の楽しみにしていた土佐高のハイクの会の日だ。集合場所は、いつもの新宿西口工学院大前。宮本照武(37回生)



丸沼高原に集合した31名

早朝ながら、一泊旅行と覚しき集団と大型バスが例年の通り並んでいる。中でも目立つ、懐かしい土佐弁と溢れる笑顔の集団。参加者三十一名(幼児二名含む)を乗せて、定刻の七時半に大都会新宿を後に一路本日の目的地日光連山へと元気に出発。顔馴染みの運転手さんとガイドさんは、今年は日程が合わなかったのか新顔の方達であった。バスは東北道を快調に進み、やがて日光坂の急カーブを過ぎると最初の目的地は、元イタリヤ大使館別荘記念公園。中禅寺湖畔に静かに佇む瀟洒な建物は、昭和三年に建てられ、平成九年迄歴代の大使が使用していたとのことだ。ペランダに立ち、緑に囲まれた中禅寺湖を見ながら何故か高校時代の日・独・伊三国同盟の世界史の時間が甦る。別荘記念公園を後に、湖畔沿いにバスは走り、次は日光東照宮を参拝。「日光見ずして結構と言ふな！」もう何度もお参りしたが、まだまだ結構とは言わず、今回の旅の安全と家族の健康を改めて祈願する。奥の院まで参拝し、白糸の滝の流れをみると何か心が洗われる気分となり、マイナスイオンを体に受け、清々しい気持ちでバスに乗る。やがて右前方に明日、登山組が挑戦する日光白根山が大きく聳え、あちこちから声があがる。そして鬼怒川グリーンパレスに

到着。ひと風呂浴びて、待望の夜の大宴会が始まる。プロ並みの物真似あり、カラオケありの楽しい時間が九時まで続いた。翌日は六時に集合。いよいよ今回のメインイベント。登山組の女性達はカラフルなウェアに身を包み、昨日より？才若返った感じだ。今回の山は、関東以北では最高峰となる日光白根山(標高2578メートル)である。白根山という名がついている山は、全国に多々あるが、いずれも雪が多く、冬には真っ白になる高山である。奥白根は火山の山で、山頂付近は、溶岩ドームがそのまま固まった形となっているため、いくつかの峰があり、遠くから見ると、野球のグラブの様相をしている。金精峠を越えた群馬県側の丸沼という地点(標高一四〇〇メートル)から一気に二千メートルまでゴンドラが運んでくれる。とはいっても、そこからさらに標高差六百メートルを登るといことは、今までになかった試みである。ゴンドラ山頂駅から森林限界のあたり(二四〇〇メートル地点)に達するまでは道は尾根となっている森をゆくりとトラバースする形となっている。しかしこの道もアップダウンを繰り返しながら登る。年の平均(六四歳)を考えると大したものである。卒年の順で行くと、三七年組では、中村

季節のふるさとの味
土佐酒蔵

銀座7-12-4 友野本社ビルB1
電3545-3855 銀座第一ホテル通り

おきやく
TOSA DINING
一般財団法人
高知県地産外産公社

プロデューサー&GM
濱田知佐(56回生)

スタッフ
上原 麗(78回生)

アルバイト
西森 咲(82回生)

アルバイト
高木一歩(85回生)

www.marugotokochi.com/
Tel 03-3538-4351 (サンゴ・血鉢・ヨソコイ)
〒104-0061 東京都中央区銀座1-3-13

(裕)、馬田、橋田夫妻、三浦(三)、濱田、三八年組では、羽方、中島、相良、西内、沢村、伊藤(真)、井上、四四年組で荒木、五五年組で金沢、五八年組で岩橋の合計十六人が山頂の標識に手を触れたのである。そして山頂付近の斜面で楽しい昼食を摂った。残念ながら、周辺の至仏山武尊山などは視界が限られていて見えなかったが、苦労して登ったという実感が湧く山旅であった。

帰路は途中から猛烈な雨に見舞われ、川のように流れる山道を慎重に降り、ずぶ濡れの体をゴンドラの始発駅まで運び、その建物内にある座禅温泉で温めながらバスに乗った。本格的に

第十五回ハイクの会 俳句・川柳優秀賞

●俳句の部

〈天〉 天上の涼風ほほに足湯かな

中村誠三 (三七回中村・夫)

〈地〉 万緑の車窓の上に男体山

中島 宏 (二八回)

〈人〉 行き違う鈴の音すずし奥白根

西内 弘 (三八回)

●川柳の部

〈天〉 あれそれと代名詞増え老夫婦

宮本律子 (三七回宮本・妻)

〈地〉 今年こそ今年まではと登る山

岡田四郎 (二八回)

〈人〉 山姥もスカートはけば山ガール

中島 宏 (二八回)

レインウェアを皆が着用し、その効用を感じたのは、今回がおそらく初めてであろう。

一方、ハイキング組は、約四キロメートルのコースを二時間かけての散策である。比較的歩き易い散策の道とは言え、それなりのアップダウンもあり、ミ二登山の印象を持ったのは、日頃の運動不足の結果であろう。しかし、林を抜ける風は、心地よく、東京では味わえない澄んだ空気が、思わず大きな深呼吸をする。途中六地蔵に参拝。欲張って六つの地蔵様にそれぞれ願い事をし、手を合わす。天空の足湯でしばし足の疲れを取り、ゴンドラで降り、レストランで昼食を摂る。この時、どしや降り

となるが、幸いに建物の中に入る直前だったのでそれほど濡れる事はなく、ラッキーだった。

帰路の車内は、恒例となつている俳句と川柳の創作タイムである。中山(三七回)先生が選者となつて、次の方々が入賞された。入選作は別表の通りです。今回も陶芸家の井上(三八回)さんが丹精込めて作られた素晴らしい陶器を賞品として提供して頂き、受賞者の顔に喜びの笑みが見え、受賞者の顔に喜びの笑みが見え、創作タイムで頭を使ったあとは、気分を変えてカラオケタイムとなり、先ずガイドさんの河内おとこ節に始まり、皆さんの歌唱力にただ聞き入つては感心する事しきり。途中東北道が渋滞となり、北関東道に変更し、バスは順調に走り、九時半頃新宿に到着。最後にガイドさんが、『足が疲れているでしょうが、足の裏が黄色の方は大丈夫、赤い方は危険、黒い方は汚れます。』という駄じやれにドツと笑いながら、今回のハイクの会は、散会となる。

「又、来年ね。」と声をかけながらネオンの映える新宿を後に、夫々自宅への帰途につく。今回の日光・白根の旅こそ「日光見ずして結構と言うな」となる思い出の旅となることだろう。

*尚、登山組の紀行につきましては、濱田継夫氏の紀行文を参考にさせて頂きました。

編集後記

◇西岡恒憲編集長を「筆山」編集部では「変哲長」と呼ぶ。しんどいボランティアを10年以上も続けられるのは「酋長」はともかく、大「変」には違いない。今回事情で代理を務めたが、こちらは一回でもお手上げだ。

◇非力ゆえ16頁を組む自信なく、25%減の12頁でと、手抜き作戦を開始した。結果、誌面不足から好評の連載「ふるさとへの手紙」は休載せざるを得なかった。◇締め切り間際の10月末、シンポジウム「放射線と向き合う」が有楽町朝日ホールで開かれ、講師の一人として村田三郎医師(41回・大阪)が登場。低線量被爆の影響を憂へる報告は説得力があったと参加した同期生の感想だ。この話題もスペースの関係で載せられなかった。◇誌面をほぼ組み上げ、ひと息ついた日曜の午後、N事務局長からの電話は「サッカーク部全国大会出場へ」の朗報。更に「土佐高が科学甲子園出場」とA元幹事長やT元事務局長から吉報が相ついだ。誌面組み替えのため支部だよりの写真を割愛、記事を削つての突貫工事を余儀なくされた。◇寄稿の各位にお許しをうけ次第。◇サッカーが奇跡を呼べば次は「甲子園」の音が高まる。野球部新監督に就任された西内一人先生(59回)に抱負など伺った。こちらは本家本元の全力疾走である。来夏活躍を大いに期待しつつ、臨時の編集子は手抜きに伴う不手際の数を読者各位にお詫りする他はない。(有村康生 41回生)

Table with 4 columns: Organization Name, Contact Information (TEL, FAX, E-mail), and Address. Includes entries for Tosa University, various regional branches, and legal services.

母校/同窓会本部/各支部

★出版リーダー★

尾池和夫 (34回生) 日本列島の巨大地震 011.10 ¥1,260 岩波書店
野田正彰 (37回生) 現代日本の気分 2011.07 ¥2,940 みすず書房
塩田 潮 (40回生) 辞める首相 辞めない首相 2011.09 ¥998
 日本経済新聞出版社

高山 宏 (42回生) 新人文感覚 1 2011.08 ¥12,600 羽鳥書店
宮岡 等 (49回生) こころの病は、誰が診る? 2011.08 ¥2,310
 日本評論社

坂東真砂子 (51回生)

くちぬい 2011.09 ¥1,680 集英社

逢はなくもあやし 2011.08 ¥450 集英社

門脇 護 (53回生) (ペンネーム 門田隆将)

太平洋戦争 最後の証言 第一部 零戦・特攻編 2011.08
 ¥1,785 小学館

康子十九歳 戦渦の日記 2011.07 ¥690 文藝春秋

太平洋戦争 最後の証言 第二部 陸軍玉砕編 2011.12
 ¥1,785 小学館

英保未来 (54回生) (ペンネーム 大森望)

不思議の扉 2011.08 ¥540 角川書店

結晶銀河 2011.07 ¥1,155 東京創元社 NOVA4 2011.05 ¥998
 河出書房新社

森岡 浩 (55回生) 全国名字大辞典 2011.09 ¥5,985 東京堂出版

ここからは雑誌に掲載されています

廣瀬裕子 (60回生) (ペンネーム 高遠裕子) 人生を変える80対
 20の法則[新版] 2011.07 ¥1,680 阪急コミュニケーションズ

田島征三 (34回生) 「今考えたい、平和の絵本」この本読んで!
 11(3) (通号 40) [2011. 秋]

野田正彰 (37回生) 「「独立の民」の住む島、アイスランド」北方
 圏. 155 [2011. 春] 「講演 災害が心病む日本社会に問いかけて

いるもの[含 質疑応答]」労働法律旬報. (1753) [2011.10. 上旬]
 「連載対談 外野の直言、在野の直感(第9回)菅原文太×野田
 正彰 悲しみの抑圧がつくる社会とは?」本の窓. 34(7) (通号
 308) [2011. 8] 「被災者に寄り添い、復興に向かう力を (特集
 東日本大震災 支援・復興をどうはかるか)」前衛. (通号 871)
 [2011. 6]

「編集長が聞く 被災者の心に寄り添うために」メディカル朝
 日. 40(6) (通号 475) [2011. 6] 「インタビュー 野田正彰 精
 神科医・関西学院大学教授」週刊ダイヤモンド. 99(23) (通号
 4383) [2011. 6. 11]

柿田睦夫 (38回生) 「大詰めの「戦没者の妻 国賠訴訟」」前衛.
 (通号 875) [2011.10] 「終わらぬ「戦後」—平和遺族会の25
 年と遺族行政」前衛. (通号 872) [2011. 7]

塩田 潮 (40回生) 「政治 振り子で終わるか救世主になるか—新
 指導者・野田佳彦論」改革者. 52(10) (通号 615) [2011.10]

「そろり立ち上げた新体制 挑むは実質的政治主導か (特集
 政権漂流は止まるのか 野田新内閣を占う)」ニューリーダー.
 24(10) (通号 288) [2011.10] 「そのとき首相は—非常事態
 とリーダーシップ(第3回)」内閣は一日もむなしくすべからず
 関東大震災に名を残す山本権兵衛の慧眼と度量」ニューリー
 ダー. 24(9) (通号 287) [2011. 9] 約束どおり経済危機を乗
 り切った福田赳夫」ニューリーダー. 24(8) (通号 286) [2011.
 8] 「そのとき首相は 非常事態とリーダーシップ(新連載・第
 1回)危機管理のプロを起用した中曾根権限を与え全責任を負っ
 た村山」ニューリーダー. 24(7) (通号 285) [2011. 7] 「FO
 CUS政治 周到さが最大の武器、野田流は迷走を止めるか」週刊
 東洋経済. (6347) [2011. 9. 17] 「そのとき首相は 非常事態と

リーダーシップ(第2回)命脈尽きることを承知で政敵を招聘し
 た田中角栄 「FOCUS政治 山場迎える退陣問題、政治の危機
 は収まるか」週刊東洋経済. (6343) [2011. 8. 13・20]

「FOCUS政治 「大きな政治」に挑めない、崖っ縁民主党の無力」
 週刊東洋経済. (6336) [2011. 7. 9] 「FOCUS政治 「国難克服」
 に国会活用を、菅首相の活路は挑戦姿勢」週刊東洋経済. (632
 9) [2011. 6. 4] 「石被茂、亀井静香、渡辺喜美、舛添要一、
 平野貞夫ら政界のキーマンを直撃! 誰が菅総理の首に鈴をつけ
 るか」プレジデント. 49(24) [2011. 7. 18]

黒鉄ヒロシ (41回生)

「巻頭インタビュー 漫画家 黒鉄ヒロシ いま必要な教師像は
 歴史の中に見える」総合教育技術. 66(9) [2011. 9] 「悲しい
 とき辛いとき、本物の大人ならどう振る舞うのか 伊集院静×
 黒鉄ヒロシ 大人の流儀を語ろう (苦難と不安の時代、大人の
 出番です!)」週刊現代. 53(24) (通号 2621) [2011. 6. 18]

杉山雄一 (41回生) 「座談会 薬物間相互作用はここまで予測でき
 る (薬物動態の変化を伴う 薬物間相互作用)」Pharma tribun
 e. 3(4) (通号 28) [2011. 4] 「トランスポーター入門 (薬物
 動態の変化を伴う 薬物間相互作用)」Pharma tribune. 3(4)
 (通号 28) [2011. 4]

高山宏 (42回生) 「前衛と求道—多木浩二先生追悼 (追悼 多木浩
 二)」現代思想. 39(8) [2011. 6] 「図書館特別資料紹介
 歌麿のShell Shock—『潮干のつと』購入に感謝」図書譜.
 (14) [2010. 3]

坂東真砂子 (51回生) 「口を縫う歴史」青春と読書. 46(10) (通号
 423) [2011. 10]

門脇 護 (53回生) (ペンネーム 門田隆将) 「黒潮を越えた日台
 友情の絆」Voice. (通号 407) [2011.11] 「大東亜戦争を戦っ
 た大正世代の矜持」Voice. (通号 405) [2011. 9]
 「太平洋戦争 最後の証言(零戦・特攻編)」週刊ポスト. 43(34)
 (通号 2143) [2011. 8. 19・26]

英保未来 (54回生) (ペンネーム 大森望) 「大森望の新SF観光
 局(第25回)続・小松左京とその時代」SFマガジン. 52(11)
 (通号 668) [2011. 11] 「大森望の新SF観光局(第24回)小松左京
 とその時代」SFマガジン. 52(10) (通号 667) [2011. 10]

「大森望の新SF観光局(第23回)ウィリス、ビッスン、チャンの
 SFトーク」SFマガジン. 52(9) (通号 666) [2011. 9]

「大森望の新SF観光局(第22回)萩尾望都のSF世界」SFマガジン.
 52(8) (通号 665) [2011. 8] 「『伊藤計劃記録—第弐位相』

刊行記念トークショー採録 いかにして伊藤計劃は作家となっ
 たか (特集 伊藤計劃以後)」SFマガジン. 52(7) (通号 664)
 [2011. 7] 「二〇一〇年代の日本SFに向けて (特集 伊藤計劃以
 後)」SFマガジン. 52(7) (通号 664) [2011. 7] 「大森望イン
 タビュー—日本SF短篇黄金期とアンソロジーの役割 (特集 伊
 藤計劃以後)」SFマガジン. 52(7) (通号 664) [2011. 7] 「私
 が選んだ「ベスト5」—Book Selection (読む 見る 聴く—夏
 休みお勧めガイド)」週刊新潮. 56(31) (通号 2804) [2011. 8.
 11・18] 「対談 大森望×佐々木敦 涼宮ハルヒは止まらない!!
 —ジャンル・世代・国境を越える魅力の秘密 (総特集 涼宮ハ
 ルヒのユリイカ!)」ユリイカ. 43(7) (通号 597) (臨増) [20
 11. 7]

川村昌嗣 (54回生)

「特定健診および人間ドックの問診記入相違の検討」

日本保険医学会誌. 109(2) [2011. 6] 「未病のさらに先=若返
 りを目指して!—努力と我慢をせず、お金と時間をかけずにクビ
 レができるダイエット! (第17回日本未病システム学会学術総
 会論文集)—(ワークショップ 未病を測る)」日本未病システ
 ム学会雑誌. 17(1) [2011]